



つなぐ・はぐくむ・共に生きる

# Yurihama

鳥取県湯梨浜町 町勢要覧 2024

# つなぐ・はぐくむ・ 共に生きる

湖から湧き出る良質な湯  
四季折々の自然が織りなす**豊穣**なる湖畔

白い砂浜から望む雄大な青い海  
沿海の佳景に溶け込む人々の暮らし

神話や先人の足跡を内包し

温かく懐かしい安らぎを醸し出す

豊かな風土や文化を守りつつ

世界との融和を通じ

包摂性のある輝かしい未来を具現する



# ごあいさつ



湯梨浜町制施行20周年に合わせ、湯梨浜町町勢要覧の本編と、数値で各種目標を示す資料編を作成しました。

本編の作成に当たっては、

20年の変化を織り込みつつ、湯梨浜町の現在の姿を表すとともに、活躍される町民の皆さまを積極的に紹介することに努めました。

そして、湯梨浜の財産を未来に「つなぐ」、町の個性を生かし「はぐくむ」、健康や産業を守るため「共に生きる」の三つのキーワードのもと、10の切り口により町の現状を紹介しています。



湯梨浜町長 宮脇正道

て参りました。

資料編は、国勢調査や農林業センサスなどの統計調査のほか、住民基本台帳などをもとに、できる限り最新の数値により町の現況をお示しするよう努めました。

町勢要覧は、町政の一定

の指向性を示すとともに、県外の皆さまに広く湯梨浜町を知つていただき、町民の皆さまに町の現状をご理解いただくことが目的です。

結びに、「防災」「福祉」に関して、「自助」「互助」「公助」という言葉が使われ始めてかなりの時間が過ぎましたが、本町では「協働」という視点でまちづくりを進め

引き続き、町民の皆さまと力を合わせて、総合計画

の目標「住みやすく魅力と活気あふれる愛のまち」の現出が図れれば幸いです。

## 目次

### 4 自然のめぐみを次代につなぐ

湖から湧き出るめぐみの湯

代々受け継ぐ新鮮な食感

人との巡り合せが浜辺に誘う

### 10 母なる湖や

今も息づく歴史と共生する

水辺に暮らしば水辺と暮らす  
町を通り抜ける古からの風

### 14 町の誇りを心から楽しみ、

湯梨浜発の笑顔で世界をつなぐ

湯梨浜で生まれたグラウンド・ゴルフ  
ハワイとはわいアロハの絆は海を越えて

### 18 地域が育む小さな命と健康寿命

地域ぐるみで育む子育てしやすい町  
心も体もいきいきと「生涯活躍のまち」

### 22 町の明日を切り開く、

特長を生かした事業展開

資源を生かして好循環を「産み」育てる

# めぐみの湯

四季折々の風景と湯けむりとが相まって、心癒やされる湖畔情緒を醸し出します。

## 観光客を呼び込む 二つの温泉

を含め、10軒の旅館があります。

町には「はわい温泉」と「東郷温泉」の二つの温泉があります。東郷湖からの温泉の湧出については、江戸時代の記録が残っています。旅館の創業は明治時代で、戦後の高度経済成長に伴いその数を増やし、隆盛を極めました。

東郷温泉には、美しい景観や立地の良さなどから、1957（昭和32）年に国民宿舎全国第1号となる「水明莊」が開業。はわい温泉には、たびたび将棋や囲碁のタイトル戦の会場ともなる「望湖楼」



## 足湯

東郷湖周には、温泉を活用した七福神の名のついた七つの足湯があり、町内各所で観光客やウォーカーなどを温かく出迎えるほか、町民の憩いの場にもなっています。中には、温泉卵を作れる湯つぼや、温泉をくめる「温泉スタンド」が併設されている足湯もあります。



はわい温泉「千年亭」の湖上露天風呂



湖屋カフェ（写真左）と宿泊拠点のモバイルハウス。いずれも東郷湖に面しており、季節や天候を感じることができる、自然と一体となった施設です。

## 温泉街に流れる ゆつたりしたひと時

感染症の拡大は、生活様式や働き方など、社会に変革をもたらしました。このような時代の流れの中、2021年はわい温泉に新しい趣向の宿泊施設「湖屋」が誕生。旅館の敷地内に、アウトドアの人気メーカー製のモバイルハウス「住箱—JYUBAKO—」が設置され、ピザやカレーを楽しめるカフェも併設されました。運営するのは牧田和己さんと貴子さんご夫婦。以前から営んでいた旅館業について、若い人にも選んでもらえる切り口を模索していました。その折、町の事業の一環で、現在の運営形態について県外の事業者から提案を受けました。

「はわい温泉には気軽に立ち寄れるカフェのような飲食店が少ない状況でした。都会のお客様からの、チェックインまでの時間をつぶす場所が

ほしいという声もヒントになりました」と和己さん。旅館の立地が生かされ、カフェからは東郷湖を一望することができます。「入浴よりも、食事を重視しました。お客様に

はゆつくりと、充実した時間を過ごしていただきたいと思いました」。ご夫婦は「宿泊業と飲食業を両方営むのは大変です。しかし、はわい温泉を知つてもらうきっかけとなつたり、町の関係人口の拡大につながつたりすれば幸いです」と力強く語ってくださいました。



牧田さんご夫婦



## 温泉熱発電

2015（平成27）年、協和地建コンサルタント（株）が県と町の補助金を活用してバイナリー発電機を整備。最大出力は20キロワットで、東郷温泉の湯により一般家庭約30世帯分の電力を発電し、固定価格買取制度を活用して売電しています。発電に利用された後の湯は、国民宿舎水明莊や多目的温泉保養施設「ゆアシス東郷龍鳳閣」で2次利用され、燃料費の削減や湯温調整の適正化に寄与しています。

# 代々受け継ぐ 新鮮な食感

『東郷音頭』で「日本一」と唄われる東郷二十世紀梨。  
先人の知恵や風土のめぐみは、世紀を越えて受け継がれます。

こうして町は、二十世紀梨の全国有数の産地となりましたが、後継者不足が深刻となり、梨の栽培面積は最盛期の

祖父から孫に  
孫から未来に

東京都で生まれ育った安藤



## 梨団地

梨の果樹園の多くは急傾斜地に位置しています。水はけの良い傾斜地は栽培に適していますが、機械化などによる省力化技術の導入が困難であり、多くの労力を必要とします。このような問題を克服して産地維持を図るため、町は県の補助を受け、町内の水田を転換するなどし、平たんな梨団地を整備しています。2024年現在、町内に新たに約3.5haの団地を造成中であり、新規就農者を含む10人程度の入植を予定しています。



東郷二十世紀梨

## 研究を重ね 町の主要産業に

果肉のみずみずしい食感と、酸味と甘さが調和した爽やかな味により、県内外で多くの人に親しまれている町特産の東郷二十世紀梨。その栽培の歴史は古く、明治後期に旧東郷町に導入されました。以来、栽培技術・品質向上の研究や、黒斑病の克服など、先人の弛まぬ努力に支えられ、今日の名声が築き上げられました。

さらに、東郷湖を中心とした緑豊かな山地、花こう岩系の土質、日本海や湖の影響による温暖な気候など、梨作りに適した町の風土も産地形成の大きな要因です。



松崎駅南梨生産団地

## 豊かな風土に育まれた 湯梨浜の多彩な逸品

### クレオパトラメロン

果皮が滑らかで、色鮮やかな黄色の大玉メロンです。肉厚な果肉は、みずみずしく、とろける食感です。



### とまり美人

日本海の潮風と太陽をいっぱいに浴び、甘み・食味・後味と三拍子そろったスイカです。



### のきょううめ 野花梅

果実は直径5cm以上にもなり、楕円形（だいんけい）で肉厚の大玉の梅です。加工品としても人気があります。



### ハワイピオーネ

大粒で甘みたっぷり、砂丘地で栽培された種なしの高級ブドウです。巨峰の改良品種としては最高の品質です。



### ハワイシャインマスカット

歯ごたえが良く、濃厚な甘みと芳醇（ほうじゅん）な香りが口いっぱいに広がります。種がなく、皮ごと食べられます。



### 湯梨浜いちご

山陰の厳しい寒さの中でじっくり熟成され、濃厚な甘さと酸味のバランスが絶妙です。



「父の岡本恒雄さんは、安藤さんが梨作りを始める時を振り返ります。『彼が幼いころ、二十世紀梨を守りたいという思いで、梨作りのやりがいについてよく話しました。もしかすると、そういったものが染みついていたのかもしれません。決断を聞

いた時は驚く一方、並々ならぬ信念があると感じました』。2024年現在、安藤さんは、岡本さんの果樹園を含め、約70haの果樹園で梨作りをしています。「梨作りのほか、農家民宿の経営もしています。さらに、梨作りを体験できるボランティアや修学旅行生の受け入れもしています。一人でも多く、梨に興味を持つていただきたいと考えています」と安藤さん。祖父から受け継いだ梨作りは、次代の人たちに受け継がれています。



←岡本さん（左）と安藤さんに挾まれた二十世紀梨の木は、安藤さんがかつて袋掛けを手伝った思い出の木。



新甘泉の摘果作業を行う安藤さん

## 定置網漁業により 雇用を創出

支援により小型定置網操業が再開されました。

定置網漁業の船長・丁田香



泊漁港に水揚げされた海の幸



泊漁港



石脇の海岸線

町の北部は日本海に面しており、海岸部には砂丘地帯が連なっています。夏には海水浴場が開設されるほか、第2種漁港の「泊漁港」と、第1種漁港の「羽合漁港」の二つの漁港が整備されています。

このうち泊漁港は、最盛期の1950年代、漁獲量が1500トンを誇るなど、旧泊村の産業を支えていました。しかし、現在では、従事者の高齢化や後継者不足が進行。産業復活に向け、2018（平成30）年度から県や町の

さんは、漁期である3月から12月までの間、なぎの日の朝に船員と出港します。タイ、トビウオ、アジ、シロイカのほか、たまにマグロも取れるなど、多様な魚に出合えるの



20代の船員の皆さん。「将来は自分の船を持ちたい」といった夢を持ち、日々修行中です。



### 井戸海水式陸上養殖場「海の駅とまり」

青い海、白い砂、海の幸  
人の温もりが海に人を呼び、自然のめぐみが再び輝きます。

湯梨浜の  
浜

# 人との巡り合せが 浜辺に誘う



せり上がる波の斜面を走る鳥飼さん（左）

が魅力のこと。「取れない時は辛いと感じることもありますが、和気あいあいと作業するよう心がけています」と丁田さん。若い研修生や経験の浅い船員がいるため、安全に配慮しつつ、日々役割を変えるなどし、幅広く仕事を覚えられるよう工夫しています。

## 静かにぎわいを取り戻す海岸沿い

かつて3か所開設された町内の海水浴場は、ハワイ海水浴場の1か所のみとなりました。閉鎖された石脇海水浴場は、緩やかな美しい弓形の海岸線を持ち、「鳴り砂」の浜として知られています。2006（平成18）年には、環境省により「快水浴場百選」に選ばれました。

このような石脇の海には、波に魅了されたサーファーが年間を通じて多く訪れます。浜辺を見下ろすことのできる

美容室の経営者・鳥飼弥生さんは、その一人です。

大阪府で美容師をしていました鳥

飼さんは、石脇の美しい景色に魅せられ、趣味のサーフィンを楽しむためにた

びたび訪れるようになり、移住を決意。町の地域おこし協力隊として採用され、任期終了後、町の補助金を活用して

美容室を開業しました。「とにかく人です。石脇の皆さんには、私たちサーファーを温かく迎えてくださいました」と魅力を語る鳥飼さんは、「親切にしてくださる人が多く、中には魚の煮つけをくださる人もいます」と感謝の念が尽きません。

青い海、白い砂に加え、人に選ばれました。

内から海を眺め、年間およそ200日、波に乗る暮らしが満喫しています。



## CROWD

横山仁志さんが石脇で営むサーフショップです。横山さんは、国内外のサーフィン大会に出場した経験などを生かし、サーフィンの魅力を広く伝えたいと、鳥取県への帰郷に合わせて開店。石脇に集まるサーファーの憩いの場となっています。鳥飼さんの店は「ご近所さん」で、鳥飼さんの店と隣接するカフェも含めて浜辺にぎわいを創出しています。



# 水辺に暮らす

周辺住民から「どうぞいき」と親しまれ、  
移ろう季節とともに表情を変える癒やしの湖

## 湖をぐるりと囲む 多様な資源



町のほぼ中央に位置する東郷湖は、鶴が翼を広げたような形をしていることから、「鶴の湖」と呼ばれることがあります。周囲約12キロ、面積約4平方キロの汽水湖で、山陰八景や農林水産省による「美しい日本のむら景観百選」に選定された風光明媚な湖です。湖底からは温泉が湧出しそうな魚介類も豊富で、多くのめぐみを私たちにもたらしてくれます。

そして、はわい温泉、東郷温泉、伯耆一ノ宮や古墳群などの歴史遺産、二十世紀梨の果樹園などの資源に囲まれています。

湖は、県の都市公園・東郷湖羽合臨海公園の一部です。公園は1979（昭和54）年の開園以来、年次的に整備され、四季折々の花などの自然と触れ合える区域、テニス、スケートボード、カヌーを本格的に練習できる施設のほか、ジムや体育館を併設した

出雲山展望台から日本海や大山、東郷湖を望む



### アダプトプログラム

「東郷池の水質浄化を進める会」では、2008（平成20）年度から東郷湖やその周辺の美化促進に取り組んでいます。2023年度現在、40団体がこの取り組みに参加し、年間延べ約60回・500人が活動しています。

施設、日本最大級の中国庭園「燕趙園」<sup>えんちょうえん</sup>のような観光名所など、多種多様な施設が湖周に点在しています。晴れた日

には、芝生で憩う親子、花や景色を写真撮影する人、自転車やジョギングなどで汗をかく人などを多く見かけます。

これにより、2013（平成25）年に、ウォーキングコース「東郷湖を巡る道」が、一般社団法人全日本ノルディック・ウォーク連盟の公認コースとして全国で初めて認められました。

## 総合的に施策を推進 湖を宝と位置づけ

2004（平成16）年、羽合町、泊村、東郷町が合併して湯梨浜町が誕生した後、地理上、東郷湖は丸々町域に収まる形となりました。これに伴い、町は東郷湖を中心とした総合的な地域振興策を開。この一環で県などの関係機関と連携してウォーキングリゾートを形成しようと取り

湖周コースを含めた町内コースについて、世界的にウォーキング活動を行う韓国の「済州オルレ」と「友情の道」協定を締結。国内外から多くのウォーカーが訪れるリゾートとしての一歩を踏み出しました。



### ドラゴンカヌー

東郷湖ドラゴンカヌー大会は、例年8月に開催され、県内外から多くのチームが参加します。ドラゴンカヌーは全長約10mで、乗員は太鼓1人、舵取り1人、こぎ手8人により構成されます。近年、教育旅行のイベントとして活用され、県内外の児童や生徒が、息を合わせてカヌーをこぐ体験を通じて、チームワークの大切さを学習しています。



### 龍島排水機場

東郷湖は周辺住民や訪れる人にとって、心も体も癒やされる自然のめぐみですが、時として災いをもたらすこともあります。1987（昭和62）年と1990（平成2）年の台風では、床上・床下浸水それぞれ数百戸という水害が発生しました。これに伴い、県により、橋津川の改修・水門の整備、東郷ダムの建設が行われました。そして、さらなる治水対策として行われた湖の護岸や道路のかさ上げとともに、町は2022年に龍島排水機場を整備して内水処理による浸水対策を図り、湖と共に存する環境整備を進めています。

倭文神社は伯耆国の一ノ宮であり、祭神・下照姫命は安産の神として広く信仰されています。出雲大社の祭神・大国主命の娘である下照姫命は、出雲からこの地へ移り住み、安産の普及に尽力したといわれています。

境内から1キロほど離れた場所に、出雲山と呼ばれる高台があります。高台からは、東郷湖、羽合平野、日本海、そして中国地方最高峰の大山

を望むことができます。下照姫命が、ここから出雲の方角を眺めていたことから、出雲山と呼ばれるようになります。

## 女神が織りなす 神話の里



# 古からの風

出雲から移り住んだ女神は故郷をしのび、遠く西方を眺めた。



倭文神社の拝殿



倭文神社境内から出土した国宝「伯耆一宮経塚出土遺物」のうち銅経筒。銘文には、1103（康和5）年に埋納されたとあります。東京国立博物館に収蔵されています。



2023年度の調査により発見された、竪穴建物跡や井戸跡

## 長瀬高浜遺跡

過去の発掘調査で、弥生・古墳・奈良時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、弥生時代の墓跡、中世の火葬墓などが多数確認されています。出土品は、重要文化財の埴輪（はにわ）をはじめ、土器、鉄器、青銅器、玉類など多岐にわたります。国道の改修事業に伴い、2022年度から発掘調査が行われ、新たに古墳時代の囲炉裏（いろり）跡や中世の畠（はたけ）跡などが発見されました。竪穴建物跡は過去の調査も合わせると300棟を超え、古墳時代の集落跡としては山陰最大級となります。

母なる湖や今も息づく歴史と共に存する



うえし  
羽衣石城 県指定史跡

1366（貞治5）年、南条貞宗により羽衣石山の頂に築かれました。戦国時代には、尼子氏、毛利氏、織田氏などの攻防により落城と回復を繰り返し、関ヶ原の戦いの後に廃城となりました。1931（昭和6）年、南条氏の子孫が模擬天守を建立。その後1990（平成2）年に町が改築し、現在の三重の天守となりました。



ほうきのくにかわむらごおりとうごうのしょうしたじちゅうぶんえず  
伯耆國河村郡東郷莊下地中分絵図（模写本）  
東京大学史料編纂所所蔵

## 近世の遺跡

国指定名勝・重要文化財  
尾崎氏庭園・尾崎家住宅



住宅は、江戸時代中期の上層農家の住宅形式を今によく伝えています。小池泉鑑賞式庭園で、地元の素材が巧みに利用されています。

県指定保護文化財  
橋津藩倉



江戸時代の鳥取藩の年貢米を集め・貯蔵するための米蔵です。16棟設置され、約5万俵の年貢米を収納可能でした。現在、3棟が残されています。

1258（正嘉2）年、荘園「東郷荘」の領有権を巡って対立していた領家と地頭の支配地域を明確にするために描かれました。境界を示す朱色の線の両脇には、鎌倉幕府の執権と連署の花押が据えられています。絵図には、東郷湖や日本海のほか、地名、寺社仏閣など現代に残るものが多く見受けられます。さらに、民家や馬、船も見て取れ、当時の人々の生活ぶりが伝わってくるようです。

## 天女伝説

脱ぎ置いた羽衣を男に隠され、天に帰れなくなった天女はその男の妻となり、2人の子どもを授かりました。天女が天に帰った後、残された子どもは鼓を打ち、笛を吹いて母親が好きだった音楽を奏でました——。羽衣が置かれた山は「羽衣石山」（うえしやま）、子どもが音楽を奏でた山は倉吉市の「打吹山」（うつぶきやま）といわれています。天女の夫は、羽衣石城初代城主・南条貞宗という伝承もあります。右の写真は、天女にまつわる言い伝えや町の取り組みを象徴するモニュメント「羽衣（はごろも）天女」。



東郷浪人踊 県指定無形民俗文化財

1579（天正7）年の南条氏と毛利氏の合戦の死者を弔うため、東郷湖畔で踊りが始まりました。その後、羽衣石城が廃城になってからも、各地に散った浪人たちがどこからともなく集まって踊りに加わり、夜明けとともに散って行つたといわれています。この踊りが後に「浪人踊」と呼ばれるようになり、現在、毎年7月に東郷湖畔で開催される「水郷祭」で、保存会により披露されています。



日本海を一望できる「潮風の丘とまり」は、年間を通じて多くのプレーヤーでにぎわいます。



国内外で親しまれる我が町発祥のスポーツ  
世界に広がる友情と健康的輪

# 湯梨浜で生まれた グラウンド・ゴルフ

「素敵なスポーツを開発してくれて  
ありがとうございます」

2024年、グラウンド・ゴルフのさらなる普及と町

で開催されるグラウンド・ゴルフ国際大会の参加を呼びかけるため、宮脇正道町長は、スペイン・セゴビア市で開催された「国際グラウンド・ゴルフ選手権ヨーロッパオープン」に出席。その際、スペイン人の選手が不意に、冒頭のとおり町長にお礼を述べました。

グラウンド・ゴルフは、1982（昭和57）年に旧泊村で誕生しました。以来、子どもから大人まで誰でも

楽しめるスポーツとして普及し、愛好者が300万人にのぼる国民的スポーツに発展しました。

高齢者を中心に、瞬く間に普及した背景には、ルールが簡単で、高度な技術を要しないという特徴があります。誕生1年後に村、県、日本とそれぞれ協会を発足させ、1989（平成元）年には初の全国大会を開催し、1993年には専用コースであるグラウンドゴルフのふる里公園「潮風の丘とまり」を完成させるなど、関係者の迅速かつ着実な歩みも普及の要因といえます。

町の誇りを心から楽しみ、湯梨浜発の笑顔で世界をつなぐ

相互振興を目指して  
スポーツツーリズムの  
町村合併後、町は若年層にも  
親しんでもらおうと、「ジュニアグラウンド・ゴルフ発祥地大会」を開催。そして、  
2015（平成27）年からは、公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会や県と連携し、海外での普及にも取り組んでいます。

国際化の主な取り組み内容は、海外の政府機関や競技団体に対するルール紹介や実技指導、国際大会の相互参加、

用具の提供・販売などです。世界10か国以上で協会の活動が確認されており、2019年の国際グラウンド・ゴルフ連盟（IGGF）の設立により、さらなる普及が期待されます。

## スポーツツーリズムの 相互振興を目指して

町は、世界的な生涯スポーツの祭典「ワールドマスター・ゴルフ2027関西」における、グラウンド・ゴルフの会場です。この大会の成功により、さらなる普及や、グラウンド・ゴルフを通じたスポーツツーリズムの振興を目標とします。



## 普及に欠かせない用具

海外でグラウンド・ゴルフの用具を入手するのは困難なため、町は日本全国の愛好者に呼びかけてクラブやボールを収集し、一部補修して海外の協会などに提供しています。併せて、湯梨浜まちづくり(株)は2018（平成30）年から、海外向けに用具の販売を開始しました。さらに、グラウンド・ゴルフの誕生当初から用具開発に携わる㈲米村木工（鳥取市）は、長年日本協会の用具取扱い認定企業による発注を受けて用具を製造しており、2022年、町内に合同会社ASPRYERを設立。用具取扱い認定企業となり、町と連携して「発祥地モデル」用具を開発しています。



ジェンダー・家族・社会サービス省が、高齢者の健康増進のために全地域に導入を決定。



2018（平成30）年から町と交流。ペナン州議会議員が州内の公園にコースを整備。



マドリード在住の日本人女性が協会を設立。2023年、スペイン政府に正式に認可された。



2016（平成28）年から町と交流。愛好者が急増している。東欧諸国における普及に貢献。





# はわい て 海を越えて

夏とともに友が来る——  
文化を学び、自身の文化を振り返る。

## 町名にヒント 長きにわたる交流

町村合併前の羽合町は、その町名にちなみ、アメリカ合衆国ハワイ州ハワイ郡と交流してきました。町村合併後、湯梨浜町となつた後も交流を続け、深化させています。

羽合町は、長瀬・橋津・浅津・宇野の4村が合併し、1953（昭和28）年に誕生しました。その町名は、古い地名「伯井田」が変化したことに由来するといわれています。

毎年夏には、町内事業所などでアロハシャツの着用が慣例化しています。この取り組みは、7月に開催されるハワイアンフェスティバルと合わせ、涼やかな雰囲気を町にもたらします。

特産・東郷二十世紀梨のシリップを使つた「湯梨浜ペアー・カウコーアヒー」の商品化に向け、協同開発もしています。

ます。現在の「はわい温泉」はその昔「浅津温泉」と呼ばれていましたが、1978年に、「日本のハワイ」として売り出す町おこしの一環として改名しました。

ハワイ郡との交流は、1996（平成8）年の姉妹



町の誇りを心から楽しみ、湯梨浜発の笑顔で世界をつなぐ



# Hawaiiと アロハの絆は



ハワイアンフェスティバルでは、来日したアーティストにより、町民や児童がウクレレやフラダンスの指導を受けるイベントが設けられています。町民や児童は、お礼に武道や地域に伝わる踊りを披露するなどして、交流を深めています。

町内には複数のフラダンス教室があるほか、学校法人湯梨浜学園中学校・高等学校には県内で唯一フラダンス部があります。週に1回活動し、定期的に外部講師を招いて指導を仰いでいます。学園祭はもちろんのこと、町のイベントに参加するなどして練習の成果を披露しています。創部から15年以上経ちますが、地域の人の認知度も高まり、福祉施設や祭りなど多方面から出演要請され、交流文化の素晴らしさを地域に広めています。



アロハメイツでは、町の中学生がハワイ島を訪問し、ヒロ中学校の生徒との交流を通じ、生きた英語を学んで英語力の向上を図るほか、現地の文化や自然、生活習慣を学びます。ハワイ郡の訪問は基本的に隔年で、訪問しない年にはヒロ中学校の生徒が町を訪問し、ホームステイします。

# 地域ぐるみで育む 子育てしやすい町

地域の人の温かいまなざしが保護者を包み、  
保護者の安心感が子どもの笑顔を育みます。

## 子育て・移住施策で 少子化を抑止

2023年の厚生労働省による人口動態統計では、全国の出生数は72万7277人で、前年より約4万3千人減少しました。

少子化が全国的に年々深刻となる中、町の子どもの数も減少傾向にありますが、近年同程度の水準を維持しています。2022年の、女性1人が生涯に産む子どもの推定人数を表す「合計特殊出生率」は2・15で、県の1・60を大きく上回り、県内市町村の中で最も高い率となりました。この背景には、企業や買い

物施設などが比較的多く立地する鳥取市や倉吉市などへの交通の便の良さなどから、町内で宅地開発が進められたことが挙げられます。さらに、町による子育て支援や、子育て世代の移住定住促進の取り組みもあります。

子育て支援としては、子どもを保育施設などに預けずに家庭で保育する世帯に子どもが2歳になるまで給付金を付したり、第3子以降の出産や小学校入学・中学校卒業時に祝い金を支給したりしています。

## 子育て世代の笑顔が 地域の活力

ゆりはま子育てネットワー  
クくふくふ（市川義章代表）は、子育て家庭がゆとりある毎日を暮らせるような地域とすることを目指し、2022

移住定住促進としては、若者夫婦や子育て世代の住宅新築などの費用を補助する制度を開始。2023年度までに、400世帯以上に対して支援しました。

## 病児保育施設

急な発熱などでこども園や学校に通えない子どもを一時的に保育する病児保育施設。この施設を町内に開設する医療法人紡（つむぎ）を近隣自治体と連携して支援することにより、町や近隣自治体に暮らす保護者が安心して働ける環境を整備し、利便性とサービスの向上を図ります。施設の運営は2025年1月に開始されます。



## 地域が育む小さな命と健康寿命



子どもが校庭を駆け回るなどしている間、保護者はくづくぶのメンバーと談笑。たわいもない話題に花が咲き、笑い声が校舎にこだまします。

年から活動しています。当初は地区公民館活動の一環でしたが、輪が広がり、全町的な形となりました。

主な活動内容は、毎月開催している、産後のお母さんの支援を目的としたサロン「ぐたらママ」と、親子でゆつくり過ごせる「あそびの」です。ぐたらママでは、看護師、保育士、助産師などの資格を持つメンバーが、保護者に対して子育てに関する相談に乗ったり、助言したりします。「あそびの」では、おにごっこやスポーツなどを通じて、メンバーと親子が触れ合います。



くづくぶのメンバーとあそびへの参加者

「あそびの」では、メンバーも親子も走り回ったり、休憩したり、おやつを食べたりと、それぞれが気の向くままに行動し、ゆったりとした時間が流れます。「我々自体が無理をせず、楽しみながら活動を継続していくことが必要だと考えています」と山増さん。親子を温かく見守るまなざしの輪が、町中に広がることを見据えています。

## ふるさと教育推進事業／地域未来塾推進事業

町立の湯梨浜中学校、羽合小学校、泊小学校、東郷小学校では、児童生徒が町の誇る歴史、文化、自然、人々の生活などに触れる機会を設け、ふるさとのすばらしさを体感する学習を行っています。このうち泊小学校では、地域に古くから伝わる「泊貝がら節」を保存会が児童に指導しています。このほか湯梨浜中学校では、教員OBなど地域の人材の支援により、希望する中学1年生を対象とした「地域未来塾」を放課後などに開催。学習習慣の確立と基礎学力の定着を図っています。



運動会で泊貝がら節を披露する児童



# 心も体もいきいきと 生涯活躍のまち

## 「生涯活躍のまち」の実現に向けて

生涯活躍のまちの実現に向けた取り組みの一環で、総合相談センターや田舎暮らし体験施設を整備したほか、閉鎖されたスーパーマーケットを買い物・食堂機能などを有する多世代交流センターに改修。このほか、民間事業者と連携して、東郷湖畔の4ヶ所の遊休地を「レークサイド・ヴィレッジゆりはま」として再整備し、温泉付き分譲地や町営住宅を整備したほか、福祉施設や商業施設を誘致しました。

仲間や家族とともに「健幸」であり続ける。  
生涯を通じて心身ともに「健幸」であり続ける。

### 筋力トレーニング

誰でも気軽に楽しめる「一つの生涯スポーツ」「グラウンドゴルフ」「ウォーキング」が盛んな土壤を背景として、町は多世代が充実した生活と安心して暮らせる健康なまちづくりを目指し、健康教室や介護予防教室などの開催を通じて町民の健康増進を図つてきました。2018（平成30）年には、株式会社ヘルスリンクおよび県と「ゆりはま食と健康のまちづくり事業に関する協定」を締結。株式会社ヘルスリンクの提供する健康プロ

ログラムを活用して「ゆりはまヘルシーカラーブ」を創設し、会員に活動量計を貸与して、健康の自己管理を促進しています。

近年、町は健康状態と要介護状態の中間に位置するといわれる「フレイル」予防に着目。予防には、有酸素運動に加え、筋力トレーニングも行なっています。2022年、中央公民館泊分館にトレーニングルーム「湯梨浜みんなのげんき館」を整備。複数の健康器具を配置しているほか、運動指導員



↑レークサイド・ヴィレッジ  
ゆりはま



ゆりはまヘルシーくらぶの会員に貸与される活動量計。町内公共施設や飲食店などに設置されている体組成計によりデータを送信し、自身の健康状態を確認することができます。

などによる各種プログラムを開催し、幅広い世代の筋力増進に寄与しています。

## 近所で仲良く 健康寿命をアップ

「ゆりりんサロン長瀬中部

クラブ」は、2017（平成29）年に、介護予防や健康寿命の延伸を目的として始まりました。毎月2回、地元の公民館に地域の高齢者を中心とした会員が集まります。

代表の水野彰さんは、町の養成講座を受講し、介護予防・健康づくりリーダー「ゆりりんメイト」の資格を取得。柔軟体操や手足の指を回す運動のほか、しりとりや積木パズルなどの「脳トレ」も指導

しています。「会員は、体力測定やフレイルチェックにより、実年齢よりも若いという結果が出ます。そのことが、会員のやりがいにつながっています」と、水野さんはサロンの効果を解説してくださいました。

サロンでは、プログラムの後、お茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりする時間が設けられています。「自分も高齢になりますので、ゆりりんメイトの後継者を見つけることが課題です。体操などが難しくなったとしても、おしゃべりするだけの集まりでも開催したいと考えています」と水野さん。サロンの会場からは、大きな掛け声や笑い声が聞こえてきます。



代表の水野さん



ゆりりんサロン長瀬中部クラブの会員の皆さん



湯梨浜みんなのげんき館では、運動指導員の指導を受けながらトレーニングをすることができます。



パラスポーツを体験する児童

## スポーツの日

市民の運動の習慣化を図るため、2023年、町は10月第2月曜日を「ゆりはまスポーツの日」に、毎月第2日曜日を「スポーツに親しむ日」に制定しました。さらに、小学生がオリンピアンなどから体を動かすことの大切さを教わり、その大切さを家庭内に持ち帰って伝えることにより、スポーツ実施率を向上させる「キッズ健幸アンバサダー」の養成にも取り組みました。

# 好資源を生かして 循環を「産み」育てる

町の素材に新たな角度から光を当て、  
にぎわい創出や地域経済活性化の芽吹きとする。

## 事業承継と 企業誘致

町内の商店は、家族経営型商店が多く、小規模な店舗が大半です。景気の低迷や人口減少が続く中、近隣自治体に立地する大規模小売店などとの競合により、空き店舗の増加や後継者不足が深刻化しています。これに伴い、2023年、町は町商工会および(株)日本政策金融公庫と事業承継支援に関する連携協定を締結。三者が連携し、事業承継の円滑化を図っています。

一方で、町内では大規模な工業団地が形成されており、就業の場の確保策として町立小中学校の統廃合による跡地施設への企業誘致も進めています。このうち、旧羽合西小学校の校舎の一部は2010(平成22)年から物流会社が水耕野菜栽培施設などとして利用。旧東郷中学校の敷地には2024年、酒造会社がウイスキー蒸留施設を建設することが決定しました。さらに、旧北溟中学校跡地も山陰自動車道から近い立地を生かし、企業の進出が期待されます。

## さくら工芸品工房

町立小学校の統合により廃校となった、桜小学校の校舎を改築して開設されました。2024年現在、手織り、絵はがき、活版印刷、ドライフラワーの店舗のほか、ミニシアター やカフェを営む人が活動しています。それぞれの入居者により、作品の販売や活動の見学、体験教室などが催され、工芸などに触れられる機会や交流の場を創出しています。東郷湖を見下ろす小高い丘にある工房までの坂道では、春になると満開の桜並木が訪れる人を出迎えます。



町の明日を切り開く、特長を生かした事業展開



## スイーツを彩る 地産の果物

町の資源を生かしつつ、事業の承継や新たな展開に挑戦する——。県外でパティシエの経験を積んだ村崎海人さんは、帰郷後、家族が営むカフェで働くこととなりました。実家が青果仲卸業者ということもあり、地元で採れた旬の果物や野菜を加工してジェラートを製造。これが評判となり、看板商品となりました。



町観光協会では、「湯梨浜を愛しているがゆえに、湯梨浜をもっと愛したい♪」を合言葉に、「ゆりはまを愛す（アイス）プロジェクト」を推進。町特産の果物や野菜を素材とするアイスクリームを製造しています。極め付きは、東郷湖産の大粒のシジミが入っている「しじみみそ汁アイス」で、ほのかなみその香りとシジミのうまみを堪能することができます。

### Project

ゆりはまを愛す

## 野花梅

町商工会では、町特産の「野花梅」(のきよううめ)を活用して商品化しています。製菓業、飲食業などを営む商工会員が、それぞれの特性を生かして商品を開発。クッキー、ケーキのほか、ドレッシングや梅みそなど多彩な商品が発売され、初夏にはジェラートやスカッシュなども楽しめます。

### Project



その後、ジェラートの卸売りの開始に伴い、洋菓子の製造依頼が増加。既存の製造室では手狭となり、県や町、町商工会の支援を受けて事務所を改装し、タルト専門店「KITE」を開業しました。タルトには、県内産のブドウ、メロン、梨、イチゴなどがふんだんに使用されています。「地元の食材を堪能していただきたいのはもちろんのこと、高単価のタルトが売れることにより、生産者の自信につなげたい」という思いもあ

ります」と、村崎さんには「地元への思い入れがあります。2024年、村崎さんは海外でレストランで勤務することとなりました。村崎さんからKITEを任せたのはパティシエの河本博美さん。「食材の組み合わせを学び、商品開発に取り組みます」と意気込みます。一方、村崎さんは「海外で大きい店の経営手腕を学び、帰国後の事業展開に生かしたいと思います」と、将来の構想を描きます。

新店長の河本さん。菓子の中でもタルトを作るのが一番好きのこと。KITEでは、店内で1組ずつ接客し、来店者の意見などをじっくり聞くことっています。河本さんは「お客様との会話が楽しみです。お褒めの言葉をいただくと、日々の原動力となります」と接客にもやりがいを見いだします。





### 町章

湯梨浜町の頭文字「Y」をモチーフに、大空に羽ばたく翼をイメージし、青と緑と白で豊かな自然(海・湖・温泉・梨・砂浜)を表現しており、全体として、自然・人・産業が共生する町の団結、友愛、飛躍発展を願うとともに、明るい未来を表現しています。



### 町の花：トウテイラン

環境省の絶滅危惧II類(VU)に指定されている植物で、県内では湯梨浜町のみに自生しています。8月から10月にかけて、淡い青紫色の花が咲きます。



### 町の木：梨

梨はバラ科ナシ属に属する植物で、春には美しい白色の花が咲き乱れ、9月ごろには大きな実が熟します。湯梨浜町は梨の生産者が多く、二十世紀梨の産地として有名です。



### 町の鳥：サンコウチョウ

毎年、町内の森林に渡ってくる、目のふちとくちばしがコバルトブルーの美しい鳥です。鳴き声が「ツキ、ヒー、ホシ(月・日・星)、ホイ、ホイ、ホイ」と聞こえことから、「三光鳥」と名づけられたといわれています。

(写真提供:中前雄一郎氏)



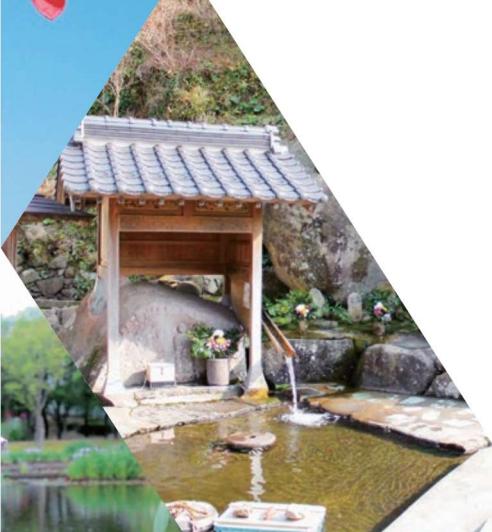
### 町の魚介類 (内水面)：シジミ

粒が大きく、その色つやから「黒いダイヤ」と呼ばれる東郷湖特産のヤマトシジミです。町民にはみそ汁の具材として親しまれているほか、身が大きくうまみがあることから県外の市場で高値で取り引きされています。



### 町の魚介類 (海面)：岩ガキ

岩ガキは、全国でも鳥取県のはか日本海の数か所でしか水揚げされない貴重な水産物です。ミネラル、ビタミン類が豊富で、「海のミルク」と呼ばれています。特に厳選されたものは、「夏輝」(なつき)というブランドで販売されています。



はいわい温泉をイメージしたハイブリッドな天女です。頭には特産・二十世紀梨の花の髪飾りを付け、髪の色も梨の色で表現しています。首には天女伝説に登場した夕顔のレイをかけ、ドレスは日本海を象徴する波の模様をイメージしています。湯梨浜の美しい自然に似合う、明るく、元気な天女です。



## 鳥取県湯梨浜町 町勢要覧2024

令和6年9月発行

発行／湯梨浜町役場 デジタル・みらい戦略課

〒682-0723 鳥取県東伯郡湯梨浜町久留19-1

TEL 0858-35-3111 <https://www.yurihama.jp/>

印刷／山本印刷株式会社

〒682-0035 鳥取県倉吉市広栄町971-21

TEL 0858-47-0088 <https://www.yp-dream.co.jp/>



湯梨浜町  
ホームページ